

差別医療・年金天引き・負担増

後期高齢者医療制度の撤廃で共同を

よびかけの「アピール」を发表

日本共産党の志位和夫委員長は五月八日、国会内で記者会見し、「高齢者差別の医療制度は廃止しかない——撤廃の一点での国民的共同をよびかけます」とするアピールを发表しました。

七十五歳以上を対象にした後期高齢者医療制度の四月実施以降、日本列島を揺るがす怒りがわきおこり、政府・与党も制度の一部「見直し」などを言い出しています。志位氏は「小手先の『手直し』ですむような問題ではなく、撤廃するしか解決の

道はない」と指摘。制度の撤廃の一点で、政治的立場の違いを超えた国民的共同を広げて、制度を廃止に追い込むことをよびかけました。

そのうえで、国民が安心できる医療制度をどうつくるかについて、財源問題を含め、国民的な討論によって合意をはかる必要があると述べました。

今後の取り組みについて、志位氏は「アピールを各党に届けるとともに、全国各地の医師会や老人会、労働組合、市民団体などに幅広く申し入れ、

懇談して、国民的共同の形成に資するように奮闘したい」と述べました。



「後期高齢者医療制度」の中止・撤回を訴える、塩川議員とあやべさんら

高齢者差別の医療制度は廃止しかない アピールのポイント

- ▽第一の理由——医療費削減のための高齢者差別法は許されません
- ▽第二の理由——制度は存続すればするほど、国民を苦しめます
 - ・保険料は「天井知らず」に値上げされる
 - ・差別医療が導入され拡大される
- ▽第三の理由——すべての世代に重い負担と医療切り捨てを押しつける制度です
- ▽小手先の「見直し」でなく撤廃せよ——安心できる医療制度へ国民的討論を

アピールの詳細は日本共産党中央委員会のホームページをご覧ください

茨城 群馬 栃木 各県医師会と意見交換 医師会からも 反対・撤廃の声 高まる

日本共産党の、あやべ澄子、小池一徳両衆院北関東比例予定候補、野村節子栃木県議は五月九日、宇都宮市にある県医師会を訪ね、高島三喜会長、



「後期高齢者医療制度」の廃止アピールをもって栃木県医師会を訪れ、意見交換するあやべさんら

太田照男副会長に、日本共産党が発表したばかりの「高齢者差別の医療制度は廃止しかない——撤廃の一点での国民的共同をよびかけます」とのアピール文を手渡し、意見交換しました。

あやべ氏は「アピール」の内容にふれながら、「廃止させる世論と運動を広げることが大切です」と強調しました。

高島会長は、日本共産党の医療政策について、「お世辞ではなく、医療のことで共産党さんが私たちのことを一番わかっていきます」と話し、後期高齢者医療制度については「仕

切り直しを行い、医療全体の財源見直しを立てる必要がある」とのべました。

また、各県で田谷・酒井・伊藤・桜井比例予定候補も、県医師会と意見交換しました。

“導入戦犯..”は自民・公明

誰がこんなにひどい制度を決めたのか？2年前、「郵政解散」で大勝した自民・公明が、ドサクサ紛れに強行採決。「公明党の主張を随所に反映」（「公明新聞」06年6月15日付）とおおいばりでした。

比例予定候補と北関東の地方議員

参加者から、「医師不足の深刻さを認識していな
い」などきびしい意見が集中して出されました。
≡ 明しました。

公立病院は、医師不
足や診療報酬マイナス
改定などで構造的に経
営が困難になっていま
す。医師数が絶対的に
足りない状況に対し国
が支援策を取るべきで
す。

埼玉

東松山市民病院長と懇談

あやべ澄子・伊藤岳の両比例予定候補は党東松山市議団とともに、東松山市民病院を訪れ、鈴木祐太郎院長らと「公立病院改革ガイドライン」で懇談しました。

東松山市民病院は医師不足のため、昨年末で内科の時間外診療中止に追い込まれています。医療現場の苦悩が直接話され、医療や福祉を大切にする政治に期待が寄せられました。